

# Die Eiche

ディ アイヘ  
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft  
der Präfektur Chiba  
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1  
清和会第2ワールドナッシングホーム内  
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

## Die Eiche から読み解く 千葉県日独協会25周年

今年、千葉県日独協会設立25周年となります。『千葉県日独協会の歩み Die Eiche 総集編 (I)』(2006年刊行)の冒頭にある協会設立の頃の思い出(花井 清様)によると、1996/6/1船橋グランドホテルにて設立総会、祝賀パーティが催され、ドイツ大使をはじめ来賓をお招き、その活動がスタートしました。同書の刊行に関してというタイトルで当時の平尾会長は、当会の位置づけを次のように記しておられます。

「その活動の中核は、ドイツ将兵慰霊祭を、毎年、習志野霊園において催すことである。-中省略-しかし私たちの活動は、慰霊祭だけではない。ドイツに関する知識を深め、ドイツ文化に親しむべく、講演会や音楽会を随時開催し、また、懇親の団らんを通じて、日独の友好と会員の親睦を図る。」となっています。

この設立の方針は、現在も引き継がれておりますが、あらためて設立当初の先輩会員の皆様の活動を過去のDie Eicheの記事から振り返りたいと思います。現在、Die Eiche 編集委員会において『Die Eiche 25周年特別号(仮称)』の制作の検討準備を始動しました。今回は、1997年 Die Eiche創刊号から、2014年 Die Eiche 誌面カラー化までの活動から、当協会の活動において象徴的な活動を皆様にご紹介したいと思います。

既述の設立趣旨どおり、ドイツ文化に対する取り組みとしては、Die Eiche No.28(2003/6)にてゲーテ『ファウスト』のヒロイン マルガリータについての記事、「古城の騎士・貴婦人たちが」掲載、ミネザング(恋歌)が掲載されています。

また、ドイツに関する広範な知識の共有という点では、Die Eiche No.41(2005/12)で同年10月、千葉大構内にて3日にわたる大規模な企画が実行されました。Die Eiche No.44(2006/7)では、当時の橋口常任理事が「東ドイツ・今は昔」という記事を執筆されています。Die Eiche No.46



Die Eiche 創刊号



「大ハイデルベルク歌謡写本」より(上・下)



No.28 ミネザングの説明に使われている挿絵



3日に及ぶ開催内容

(2006/11)には、協会設立10周年記念講演が掲載されています。そこでは、木村元駐独大使による「ドイツ統一とその後」という講演がなされています。また、当協会には、様々な分野での専門家、プロフェッショナルが在籍されています。ドイツ語もその例外ではありません。Die Eiche No.55(2008/8)では、岩崎英二郎先生による「ドイツ語のおもしろさ・むずかしさ」の講演、No.71(2011/6)には、宗宮名誉会長のドイツ語意味論の記事が掲載されています。Die Eiche No.83(2013/8)では、ベルリンドイツオペラ専属歌手を長年勤められた野村理事とお弟子さんによるコンサートの実施が報告されています。当協会の設立当初から、その活動をこれまで発行されたDie Eicheを概観するだけでも、非常に当初の設立趣旨に的確に応じた活動がなされていると感じました。

「ボトルシップ研究会」発足  
会報No.69でもお知らせ致しましたが、第一次世界大戦後、習志野野原収容所に収容されていたドイツ将兵に関する第1回ボトルシップ研究会が2月19日午後、船橋市高根台公民館で開催されました。当日は、定員20人のところ15人の出席であったが、非常に活発な意見が交わされ、幸先の良いスタートを切りました。先ずは宗宮会長の挨拶、出席者全員の自己紹介後、

No.70における研究会発足記事

尚、当協会を代表するボトルシップ研究会の発足をDie Eiche No.70(2011/4)で報じてます。興味深い事実として、協会の変わらぬ伝統を発見しました。遡ってDie Eiche Vo.1(1997/6)に会費納入のお願い記事がありました。現在と同じ¥3,000-です。(常任理事/Die Eiche編集長: 勝見 浩明)

### 新理事の抱負-理事着任に当たって

皆様、こんにちは。初めに簡単な自己紹介をしたいと思います。私は大学卒業後、都内で36年間総合電機メーカーに勤務した後、生まれ故郷、九州にUターンし、大学教授(九州大学、久留米大学)として経済学を中心に教育・研究に従事し、定年退職(70才)後、2015年秋から習志野市で生活を始めました。千葉県日独協会に入会したのが2017年秋です(機関誌「Die Eiche」No.109,新入会員紹介参照)。私とドイツのかかわりについては機関誌「Die Eiche」No.120,「ドイツと私」参照。ここでも触れましたが、キールはドイツ最北端の州(シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州)の州都でドイツの中では数少ない港湾都市です。バルト海を望むキール湾岸の美しい街です。この町にあるキール大学世界経済研究所に留学しました。当時、キール市には日本人家族が10家族程度しかおらず、めったに会う機会もなく私も家族もドイツ市民との交流が主でした。



話は変わりますが、私の趣味は合唱です。現在、地元の津田沼混声合唱団と都内千代田区にある男声合唱団に入り、様々な合唱曲を楽しんでいます。私の合唱活動歴は長く、大学の男声合唱団から始まり、その後は首都圏の市民合唱団に所属し、現在まで継続しています。曲目のレパートリーは広く、日本をはじめドイツ、ロシア等の合唱曲や古くはバッハ、ヘンデルからモーツァルト、ベートーヴェンのレクイエム、ミサ曲、第九交響曲「歓喜の歌」などの宗教曲なども手掛けています。習志野市は幸い、小、中、高校などの音楽活動(管弦楽、吹奏楽、合唱など)は全国でもトップクラスであり、市民レベルの活動も活発でうれしい限りです。私は習志野霊園でのドイツ兵慰霊祭には毎年参加しています。習志野第九合唱団にも加入しステージに立っています。こうした活動には今後も積極的に参加していくつもりです。また、千葉県日独協会の活動にも積極的に参加し、自分のキャリアや経験を生かせることができるよう皆さまと一緒に活動していきたいと思っています。(理事: 永池 克明)

## ドイツ最新事情

-クンツェ 日奈子-

千葉県日独協会の皆様、初めまして。クンツェ日奈子です（旧性：吉川）。私は現在ドイツ連邦共和国ザクセン州の都市ケムニッツに家族5人で住んでいます。今回ありがたくドイツ最新情報を発信する機会を頂きましたので、ケムニッツの町の簡単な紹介と地元の小学校の現状について紹介させていただきます。



ケムニッツ（旧カールマルクスシュタット）は、ザクセン州ではライプツヒ、ドレスデンに続き3番目に大きな都市です。面積221,05km<sup>2</sup>で人口は約25万人で1km<sup>2</sup>につきおよそ1100人が暮らしています（船橋市では1km<sup>2</sup>につき約7500人）。ケムニッツは古くから機械産業の町として知られており、今も最も重要な産業都市のひとつに数えられています。

次に地元の小学校の現状(2021年3月下旬)を紹介します。規制や緩和は州に任されており、これはザクセン州の場合です。

小学二年生の双子が通う小学校は、ひとクラス最大28人の生徒を受け入れ、今現在は通常の数で授業が行われています。オンライン授業や少人数での時間差授業は行われていません。コロナ禍で行われている授業は、ドイツ語、算数、Sachunterricht(生活科)、スポーツのみで、工作、宗教、音楽、屋内水泳、オプションの英語はお休み中です。通常は朝8時開始ですが、今は学年によって校舎へ入る時間が分けており、二年生は7時35分マスクをして校舎に入って行きます。学校内では自分の教室以外の場所でのマスク着用義務があります。

授業が11時45分に終わると、そこからお昼ご飯を経て学童保育の時間となります。食堂がありクラス毎に移動し、前もってオンラインで注文しておいた食事を貰い皆で食べます。学童保育は登録していても、申し出ればお昼ご飯なしで家に帰る事も出来ます。我が家の子供達が通う小学校では、ほぼ100%の小学生がこの学童保育を利用していますが、西側(今も旧西ドイツと旧東ドイツを分けてこう表現する場合があります)ではお昼で家に帰ってくる子供達が多いようです。

余談になりますが、子供達の通う教会の児童合唱団の活動は、練習とミサを含め一切行う事は出来ず、音楽学校でのレッスンはオンラインでのみ行われています。現在ロックダウン中なので、スキーやアイススケート場も含めレジャー施設や動物園などの公共施設全て閉鎖中です。そんななか、今年の冬は幾度も大雪が降ったことで、公園でそり滑りや雪合戦が出来たことが私達にとって唯一の救いでした。

## 私と千葉県日独協会

-吉川 三朗-

会員の皆様 こんにちは。

私は、2014年（平成26年）4月に家内とともに、この千葉県日独協会に入会させていただき、もう丸7年にもなります。



新橋・アルテリーベにて 2018.12.8.

最初に皆様方とお会いしましたのが、同年8月30日に東京蔵前のドイツビアレストラン「マイネクライネ」で行われたビール祭りでした。初参加にもかかわらず皆様大変親切にいただき、大好物のビールやワインそしてドイツ料理、また全員での合唱の楽しさは今でも忘れられない思い出です。

そもそも私どもが千葉県日独協会を知ったきっかけは、東京音楽大学の野村陽子先生が協会の理事をされており、先生のお誘いもあり入会させていただきました。野村先生は私の長女が大学で声楽を学んでいたときの恩師の一人です。先生は皆様ご承知かも知れませんが、長い間ベルリン歌劇場の専属歌手として活躍された方です。長女は、大学院を卒業後、アウグスブルク音楽大学を経てオペラ歌手となり、ドイツ青年と結婚し、今はケムニッツに住んでいます。また、次女もドイツでピアノの先生をしており、私達にとってドイツはとても身近な存在となっていたことも入会の理由です。

私は現在、常任理事として協会活動に参加させてもらい、これまで次のような活動をしています。会員皆様方のご協力ももちまして、いつも楽しく活動させていただき深く感謝しております。

1. 市川市や習志野市が主宰するオクトーバーフェスタの後援活動
2. 協会活動を写真で市民に紹介する展示パネルの制作
3. 協会ホームページへの最新情報の掲載
4. ビール祭やクリスマス・忘年会などの開催
5. ドイツ軍人慰霊祭への参加

このたび、「Die Eiche」に「私と千葉県日独協会」という新たなコーナーが企画されましたので、早速応募した次第です。この企画により会員どおしが情報を共有し合い、さらなる交流が深まるようお願いいたします。

なお、今回の「ドイツ最新情報」は、編集委員会からのリクエストにより長女へ依頼し、寄稿されたものです。

(常任理事：吉川 三朗)

## ドイツの街紹介 -Frankfurt am Main-

過去、2年間の駐在と数回の訪問経験をもとに、フランクフルトとその近郊の町を紹介いたします。フランクフルトはドイツ中部に位置し、日本から直行便の多い世界有数の国際空港を備え、メイン川に沿った人口約70万人を有するヘッセン州最大の都市です。国際金融都市として欧州中央銀行が有名ですが、過去には日本の大手金融、旅行、そしてメーカー各社も多く進出し、本業の他に日本からの来客のアテンドに奔走していました。大きなアーチ状の屋根に包まれた中央駅に入ると、パリ、ウイーン他、欧州主要都市への行先表示板があり、ヨーロッパの都市が身近に感じられ胸が高なります。



旧欧州銀行前のモニュメント



中央駅の正面口



国際列車も発着する駅構内



旧市庁舎レーマー前



レーマー広場の正義の女神像



クライネマルクト内の果物店

町の特徴は中央駅を中心に、歴史的建物と近代ビルが混在し、多様性の魅力秘めていることです。例えば旅行者が訪れるゲーテハウス、レーマー広場、シュテーデル美術館、大聖堂、見張り塔、等は古い歴史を感じさせ、欧州中央銀行及び大手銀行の本社ビル等は近代都市の象徴と言えます。

市街地から南西の森には、2011年になでしこジャパンがワールドサッカーで優勝したスタジアムがあり、日本との縁を感じます。

食べ物、ゆでて食べるソーセージのフランクフルター・ヴスト、その他、レーマー広場近くの地元の人々も行くクライネマルクトを訪ねると、果物、肉、ソーセージ、お菓子等のドイツの味に触れることができます。また、メイン川を渡りザクセン地域に行けば、名物のアップルワインを楽しめます。

ショッピングはツァイルと呼ばれる歩行者天国のある地域が中心ですが、ドイツには閉店法があり営業日、時間は限られていて日本とは違い注意が必要です。冬にはレーマー広場でドイツ最大級のクリスマスマーケットも開かれます。

フランクフルトは交通の要所であり、ハーナウから北へはゲーテ街道とメルヘン街道が延びており、南にドイツ最古の大学の町ハイデルベルク、南東に下がればロマンチック街道起点のヴェルツブルク、中世の町のローテンブルク、西に行けばライン川とメイン川の合流点のマイツ、ライン下りの乗り場のあるリュエデスハイム、等のドイツらしい魅力あふれる町があります。ワイン好きにはライン、フランケン、モーゼルの各種ワインと出会うことも可能です。

今は夢物語ですが、早くコロナが終息に向かい、当協会の研修旅行が再開され、フランクフルトがドイツ訪問の中心の地になる日が来ることを願っています。(常任理事: 志賀久徳)

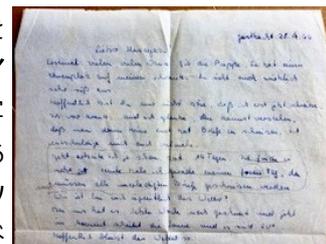
## 人生におけるドイツとの接点



ドイツと私

ドイツと私 - 戸田 正保

ドイツ&ドイツ語との以下三つの視点は、そもそも私の父が、ドイツをこよなく愛し又、ドイツ人と交流があった事に由来します。私は、父にお願いして、父と交流のあったドイツの方のお嬢様(Heidiさん)と手紙の交換をする事となりました。私が中学生の頃(≒1959年頃)であり、初めての外国語又、ドイツ文化と触れた時でした。手書きの判読を要するドイツ文字に接し、これが「ドイツ語」なのだと思わせられました。写真は、1962年当時「Heidiさん」からの手紙の一部です。当時私のドイツ語は、独学に依るものでした。私のドイツ語の手紙の添削をお願いしたところ、丁寧な修正された余白の無い真赤な手紙が返送されてきました。それは外国語を学ぶ刺激的なやり取りの継続でした。



中学生時代 ドイツ人との文通

二つ目のドイツとの印象的な出来事は、1998年9月、家内(故人)とBMW社のオートバイで、ミュンヘン出発、ダボス、スイス、北イタリアそして、オーストリア、ミュンヘンに戻ると言う、それぞれが運転するオートバイのツーリングの約2週間の旅でした。特に「Kreisverkehr システム」が印象的な旅でした。遡る事、ある時、ロンドンのハイド・パークを紳士淑女が乗馬を楽しんでいる光景を見ながら、ジョギング途中の私の目に入ったBMW社のディーラーと思しき建物が目に入り、そのまま立ち寄ったところ、日本国内では見た事の無いオートバイが目に入り、帰国後即、手に入れるべく手続きをとり、2ヶ月程でお目当てのオートバイが届けられた。以来、今日現在も同社製のオートバイに乗り続けている私です。写真は、スイス国境で撮ったものです。



夫婦でのツーリング スイス国境にて

三つ目のトピックは、ドイツ語圏のオーストリア・ザルツブルグで「モーツァルトの生家」を訪問いたしました。その時の建物のイメージが記憶に今でも残っていて、その時のイメージカラーを小生の家の塗装(リモデリング)をする折、モデファイして、私の好みをブレンドして仕上げたのが写真の家のカラーです。少し「やりすぎの感」がありますが、モーツァルトの家のイメージを楽しみたいとの思いから個人的に満足しています。



モーツァルトの生家のカラーをイメージ

自分の家のモーツァルト・イメージカラーを毎日見、BMWのオートバイに乗り、ドイツ語を学び、ドイツ文化に浸っている毎日です。

## シュタムティッシュ実施報告

### -ZOOMを使ったオンラインドイツ語会話-

シュタムティッシュ (Stammtisch) は、ドイツ語で「常連の会合」の意味。決まった日にレストランやカフェの決まったテーブルに仲間を集い、食事や飲み物を取りつつ、気軽に雑談を楽しみ交流を深める会のことで、ドイツでは広く知れ渡っています。入退場フリー、参加自由。参加メンバーは毎回少しずつ変わり、いつ行っても新しい参加者と知り合うことができます。

オンライン「ZOOM」アプリを使った新企画シュタムティッシュ「アネッテさんとドイツについて話そう」が日曜の朝、ホスト役のアネッテ植松さんとご主人の植松理事、参加者8名（会員7名・非会員1名）、協会スタッフ計13名で日本語・時々ドイツ語？を交えながら開催されました(4回、12/13、12/20、1/10、1/24)。テーマについて自由に話し合いながらドイツの文化を楽しみ、アネッテさんとオンラインで交流する集まりで、前半2回は10時から11時の1時間でしたが、話が盛り上がり多少時間が足りないこともあり、年が明けた後半2回は30分延長して行われました。

初回と2回目のテーマ「ドイツのクリスマスについて」では、沢山の貴重な写真と共に植松家のクリスマス（そこはもうドイツ？）とドイツのクリスマスマーケットの様子について、アネッテさんのドイツ語での丁寧な説明と植松理事の流暢な解説付き通訳に皆聴き入っていました。ドイツ製クリスマス人形を手にした参加者もいて、気持ちはすっかりクリスマスモードに。

3回目は「日本とドイツ(日本人とドイツ人)の違い」について。ある日、植松理事が「近所のホームセンターでブラブラしてみようか」と誘うと「ブラブラするってどういう意味？目的は？」とアネッテさんから聞かれたこと等、日本とドイツの違いをうかがわせる植松家のエピソード。ドイツにはお歳暮の習慣が無い、ドイツ人は滅多に謝らないが日本人はすぐに謝る、ドイツ人との違いよりもむしろ共通点を感じる、という意見もありました。

最終回では「アネッテさんに聞いてみたいこと」と、スタッフも一緒に全員で意見交換をしました。ドイツと日本では飲料水は違う？日本でドイツ人と知り合うには？等、話は尽きず和気あいあいとした雰囲気でした。



ZOOMでのシュタムティッシュの様子

オンライン交流は難しい点もありましたが、皆様のご協力のもと回を重ねる毎に改善され、どこからでも参加可能なオンライン式イベントに大きな期待と可能性を感じるの出来た「交流会」となりました。

(常任理事: 本間 実里)

## 日独交流150周年記念菩提樹

### その後の成長 No.4

### -Die Linden in Funabashi-

新緑の美しい季節になりました！

今月は船橋市に植樹された記念菩提樹を紹介いたします。菩提樹は当協会の林静誠顧問が当主を務めておられる阿弥陀山清房院に2本あります。林顧問には心からお礼を申し上げます。



林顧問 (左から53番目)

清房院の参道入口には、しめ縄がまかれた大きなけやきが1本。坂道になっている参道を上りきると、その左側に菩提樹が育っています。2本の菩提樹それぞれに木製の樹名板があり、「ドイツ菩提樹」と書いてあるのですぐにわかるでしょう。そばでは穏やかなお顔のお地蔵様も見守ってくださっています。清らかな空気の中でいつまでも元気に育ちますように。

2011年11月13日(日)、ドイツ軍人慰霊祭と直会開催後、一部の参加者はそのまま清房院にバスで移動しました。ドイツ大使館からグトー武官(当時)も出席し、植樹祭が盛大にとり行われました(Die Eiche126号に集合写真を掲載)。当時の様子がDie Eiche74号にも報告されていますのであわせてご一読ください(<http://jdg-chiba.com/bulletin/pdf/74.pdf>)。

※阿弥陀山清房院：東葉高速鉄道飯山満(はさま)駅から徒歩約10分、飯山満緑地公園そば

(常任理事: 本橋 緑)

## 今後の予定

- 【理事会】 4月 書面形式での会議(4月3日送付)
- 【総会】 4月 書面形式での会議(4月17日送付)
- 【イベント】 5月下旬(予定)  
ZOOMによる食文化と料理に関するオンラインイベント

## 会員情報

- 法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人 清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

## 編集後記

連載記事の「書籍/Buch」は、次号のDie Eicheにて掲載いたします。連日報道されているコロナですが、ドイツにおける4月3日時点の新規感染者数は、Robert Koch Institutの公表数字によると、2020年-6,174件、2021年-18,129件です。終息が見えない状況です。このような状況下、リモートでの活動も活発化しています。今年は、当協会25周年記念に当たり、編集委員を中心にDie Eiche 25周年特別号(仮称)の検討を着手しました。寄稿のお願いをあがることもあるかと思えます。その際は、ご協力の程、何卒、よろしくお願い申し上げます。

(勝見 浩明)